

第3学年 国語科学習指導案

1 単元名

「詩を味わおう」

～「わたしと小鳥とすずと」「夕日がせなかをおしてくる」～

2 児童の実態

3年生の最初の単元「詩を楽しもう／どきん」の学習の際に、擬声語・擬態語や文末表現の響き、リズムからの様子を想像し、それらが表れるように声に調子をつけて音読した。擬声語・擬態語の響きや言葉の調子を楽しみながら音読することができ、想像したことを声の調子などで表すという、中学年での音読学習の導入になった。

普段、本を読むことに関しては好きな子どももいて、中休みには図書室へ本を借りに行く姿も見られる。しかし、子どもたちの読書傾向を見ると、図鑑や漫画などが多く、物語や小説といった本に親しむ活動を多く取り入れる必要がある。本単元では、教材文に加え、詩集にも触れさせ、言葉のおもしろさや楽しさを感じさせながら、言葉の力を高めていきたい。

3 単元の指導目標

- ◎文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる。(思C(1)カ)
- ◎文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。(知(1)ク)
- ◎文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。(思C(1)オ)

言語活動

「詩を読んで、思ったことや感じたことを発表する。」

4 本単元と研究との関連

これまでに児童は教科書を通してさまざまな詩に出会い、そのおもしろさや工夫を楽しんできた。3年生以上の9月に位置づけた「詩を味わおう」の系列では、「楽しむ」から踏み込んで、言葉や構成に着目して、詩に対する自分の考えを形成し、それを伝え合うことに取り組む。本単元は、その第一歩であり、連の構成や言葉に着目して二つの詩を読み味わい、感想を共有することで、一人一人の感じ方の違いなどに気づき、自分の考えを広げたり深めたりすることをねらいとしている。

本年度は、研究仮説①を検証するために、①読書指導の改善・充実、②指導内容の系統性を踏まえた言語活動の工夫、③言語活動例の活用、④効果的な繰り返し学習の工夫、の4つが手立てとし

て位置づけられている。本単元では、③や④の言語活動に関わって、詩を読み味わい、友達の音読発表を聞いて感想を交流する言語活動を設定している。

どちらの詩も用いられている言葉は易しく、また、連と連との間で呼応しており、連ごとの内容のまとまりや全体としての内容が捉えやすい。この二作品を読むことを通して、詩がどのように構成されているか、連と連との関係はどのようになっているかなど、形式的な特徴にも目を向けさせながら、内容を理解していくという詩の読み方を認識させたい。音読の工夫では、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意しながら聞き手が情景をイメージできるようにし、他者との感じ方や考え方の違いに気づかせ、詩に対するそれぞれの感想が深まっていくようにさせたい。

5 単元の授業過程（全3時間）

次	時	学習活動	評価基準
1	1	①「わたしと小鳥とすずと」を読み、詩の特徴を考える。	<ul style="list-style-type: none"> 詩全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。 詩を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをもてている。
	2	①「わたしと小鳥とすずと」を工夫して読む。	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の感じ方の違いに気づき、自分の感想を深めている。
	3	①「夕日がせなかをおしてくる」を読み、詩の特徴を考える。 ②「夕日がせなかをおしてくる」を工夫して読む。	<ul style="list-style-type: none"> 詩を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをもてている。 一人一人の感じ方の違いに気づき、自分の感想を深めている。

6 本時の学習

(1) 目標

- ・詩を読んだり聞いたりして、自分なりの考えを持つことができる。

(2) 本時の展開（3／3）

児童の学習活動	研究内容との関連	教師の支援・評価
1 前時の振り返りをする。 2 本時のめあてをつかむ。		前時までの学習をふり返り、本時の学習内容をつかむ。
詩を読んだり聞いたりして、自分の考えを伝え合おう。		
3 音読をし、連ごとの内容を 読み取ったり情景や気持ち を考えたりする。 ・夕日とぼくらが会話をしてい るみたい。 ・元気なイメージ。 ・太陽の光でおしている。 ・「まっかなうで」だからとて も良い天気。 ・「ぼくら」が遊びに夢中にな って帰るのが遅くなった。 4 音読の仕方についてワー クシートに書き込み、それ ぞれで練習する。	④効果的な繰り返し 学習の工夫	・考える際の観点を提示する。 ①いい言葉（表現）だと思ったところ ②気持ちがよく分かったところ ③様子がはっきりうかんだところ <u>なぜいい言葉だと思ったのか、どの ような気持ちがあったのか、どの ような様子がうかんだのか、といっ た読み取りを大切に扱う。</u> ・「擬人法」という表現技法も扱う。
5 工夫したところを発表し、 感想を伝え合う。	③言語活動例の活用	・ペアから集団への発表へとつなげ る。 ・音読を聞くポイント（どのような ところがよいのか、どのような様子 がつたわってきたのか、）を提示す る。
6 学習を振り返る。		・色々な表現の仕方があることや、 一人一人感じ方が違うことに気づ かせる。

詩を読んで理解したことに基
 づいて、自分の考えをもてて
 いる。（思C(1)才）

(4) 板書計画

が

詩を読んだり聞いたりして、自分の考えを伝え合おう。

読みのポイント

- ① いい言葉（表げん）だなと思った
- ② 気持ちがよくわかった
- ③ 様子がはっきりうかんできた

夕日がせなかをおしてくる
まっかなうででおしてくる
歩くほくらのうしろから
でっかい声でよびかける
さよなら さよなら
さよなら きみたち
ばんごはんがまってるぞ
あしたの朝ねすごすな

夕日がせなかをおしてくる
そんなにおすなあわてるな
ぐるりふりむき太陽に
ほくらも負けずとなるんだ
さよなら さよなら
さよなら 太陽
ばんごはんがまってるぞ
あしたの朝ねすごすな

- ・ 会話
- ・ 元気
- ・ 太陽が光でおしてくる。
- ・ 第一連は背を向けているが第二連では向かい合っている。